

注目！がん看護における最新エビデンス

家族機能に問題を抱える 進行がん患者の家族に対する 死別後まで継続した 家族療法のランダム化比較試験

Kissane DW, Zaider TI, Li Y, et al. Randomized Controlled Trial of Family Therapy in Advanced Cancer Continued Into Bereavement. J. Clin. Oncol. 2016 ; 34 (16) : 1921-1927.

看護師にとって、終末期のがん患者に対する家族ケアの重要性は日々痛感していることだと思います。しかし、家族ケアは家族のニーズに沿って日々の臨床の中で継続的に行われるものであるため、その有効性を示すことは容易ではありません。Kissaneらによって行われた本研究では、進行がん患者の家族、特に家族機能に何らかの問題を抱える家族に対する2通りの家族療法のセッションを通常ケア群と比較するランダム化比較試験を行い、その有効性を検証すると共に、それがどのようなタイプの家族に有効であるか探索的に検討しました。

本研究は、アメリカのMemorial Sloan Kettering Cancer Centerと3つのホスピスで実施されました。調査の実施状況を図1に示します。予後が1年未満の患者の家族4,188人がFamily Relationship Index (FRI) という尺度を用いてスクリーニングを受け、何らかの問題があると判断された1,488人の家族のうち、620人(170家族)が家族療法を10回行う10セッション群、やや簡略に6回行う6セッション群、通常ケア群の3群にランダム化されました。実際にそれぞれの群で何セッションに参加したかは図1に示すとおり



宮下光令 教授

東北大学大学院 医学系研究科
保健学専攻 緩和ケア看護学分野

みやしたみつりのり:1994年3月東京大学医学部保健学科卒業。臨床を経験した後、東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻助手・講師を経て、2009年10月東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野教授。専門は緩和ケアの質の評価。

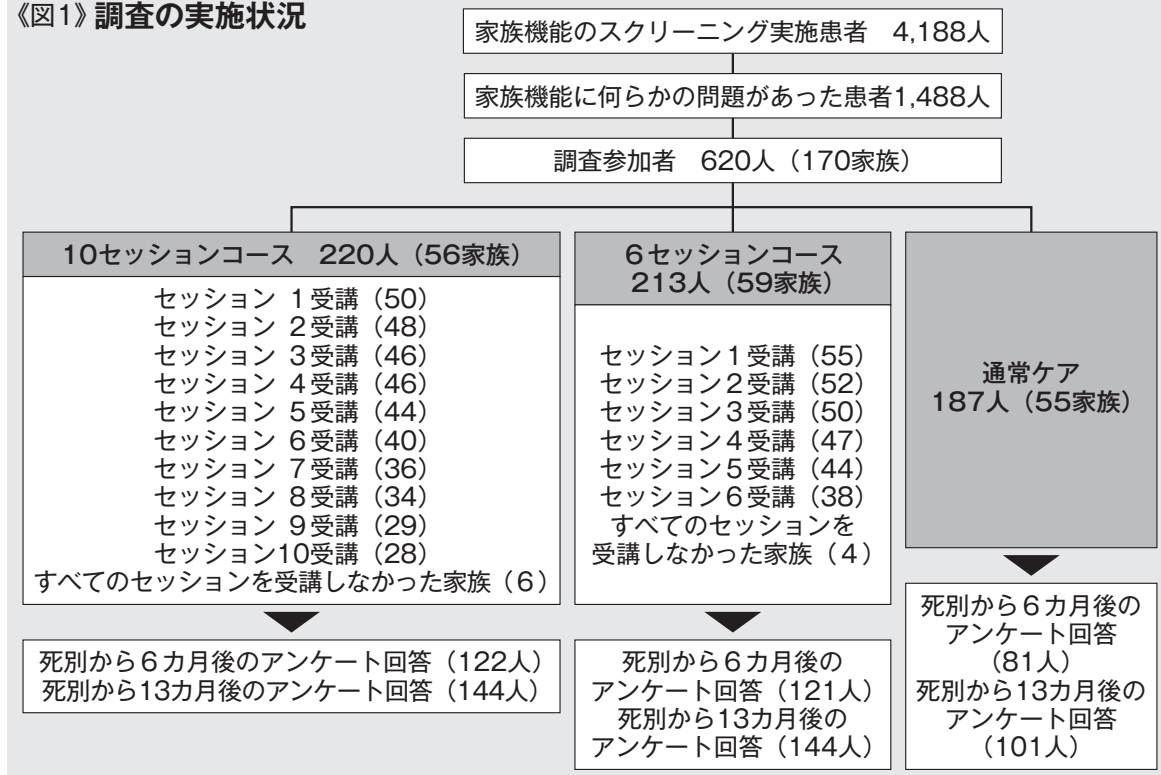
です。FRIは12点満点の尺度で、8～9点を「低コミュニケーション家族」、5～7点を「低関係性家族」、0～4点を「衝突がある家族」に分類します。

実施された家族療法はFamily-Focused Grief Therapy (FFGT) と呼ばれるもので、家族が病気について語り、治療者(ソーシャルワーカー、心理士、精神科医など)が家族の価値観、役割、期待などに合わせてそれぞれの家族のコミュニケーションや凝集性、葛藤の解決の解消について探るもので、先行研究によって死別に伴う家族の苦痛の減少、社会的な適応の最適化、死別後の抑うつ減少などが示されています¹⁾。

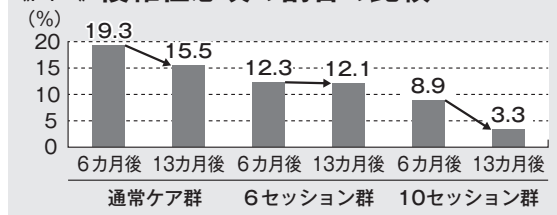
Complicated Grief Inventoryという尺度で測定された死別から6カ月後と13カ月後の複雑性悲嘆の家族割合を図2に示します。6カ月後の値は通常ケア群が最も高く、6セッション群、10セッション群の順でした。また、13カ月後の10セッション群の値は6カ月後より大幅に減少していました(P=0.048)。

Beck Depression Inventoryという尺度で測定された死別から6カ月後と13カ月後の抑うつ家族の割合は、介入によって統計学的に有意な違いはありませんでしたが、ある程度の差は見られました。図3に示すように、ベースラインから13カ月後にかけて通常ケア群ではほとんど変化がないものの、6セッション群、10セッション群では割合が減少し

《図1》調査の実施状況



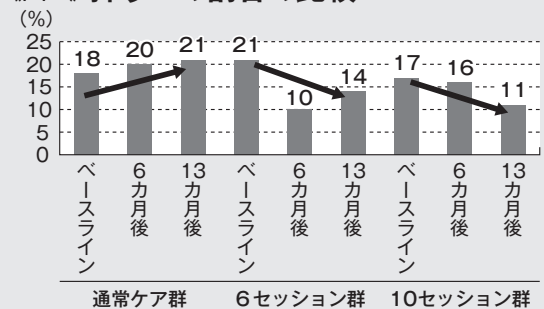
《図2》複雑性悲嘆の割合の比較



ていました (6カ月 $P=0.11$, 13カ月 $P=0.07$)。家族機能の問題による分析では、低コミュニケーションの家族で特に10セッション群が通常ケアと比較して介入効果が見られました。また、衝突がある群でも介入の効果がよく見られる傾向にありました。ただし、この家族機能の問題ごとの分析は、全体の人数が少ないこともあり十分ではありません。

家族を単位とした介入、しかもランダム化比較試験というのは非常に困難で先行研究もほとんどありません。本研究は6回、10回というトレーニングされた専門家によるセッションの効果を見ているので、看護師に

《図3》抑うつ割合の比較



よって日常的に行われる家族ケアに結果をそのまま適用することは難しいと思います。それでも、私たちが毎日、試行錯誤を重ねながら行っている家族ケアに客観的なエビデンスがあるという事実は、私たちに勇気づけてくれるものだと思います。

引用・参考文献

1) Kissane DW, McKenzie M, Bloch S, Moskowitz C, McKenzie DP, O'Neill I. Family focused grief therapy : a randomized, controlled trial in palliative care and bereavement. Am. J. Psychiatry. Jul 2006 ; 163 (7) : 1208-1218.